

新年明けまして おめでとうございます

皆様には良き初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

院長就任後 2 回目の新年を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

1. はじめに

昨年は 3.11 東日本大震災、その後の集中豪雨、台風など自然の脅威を思い知らされる大変な年でしたが、同時に人と人との絆の確かさと暖かさを心に刻んだ一年でした。被災された皆様方に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。価値観が激変したパラダイムシフトの時代にあって、われわれは今、この恵まれた医療環境であたりまえのように日常診療を行わせていただける幸せに感謝するとともに、人が人でありえる思いやり、心づかい、そして感謝の念こそが、『医療の原点』であると強く認識します。

2. 病院運営の現状と最近の動向

今年は、大津市民病院創立 75 周年を迎えます。今後も、地域医療と政策医療の両面から市民の生命と健康を守る使命を遂行します。地域医療支援病院として、診療所では対応できない急性期医療、救急医療、がん診療、難病診療はもとより高度先進医療を優しく、安全に、迅速に、的確に提供してまいります。昨年 4 月には大幅な組織改革を行いました。従来の診療局、看護局、事務局の 3 局制から医療技術局を新設して 4 局制とし、若手医師をはじめとする医療人の人材育成を充実する目的から“臨床研修センター”を新設しました。今後も役割分担の明確化と責任ある業務フローの効率化を図ってまいります。

時代にマッチした救命救急体制として 24 時間 365 日対応の“ER おおつ”をさらに機能強化しました。救急医療の場に IT 画像迅速診断システムを導入し、時間外・休日対応であっても、このシステムにより専門医と緊密な連絡の下に初期診療方針がよりの確かつ迅速に決定されます。現場では、緊急手術の必要性などの決定に大きな威力を発揮しています。

10 月には“院内助産”をはじめました。自然なお産ができるように助産師がきめ細かなケアとサポートをします。11 月には 2 倍に拡充した“健診センター”を新たに別館 4 階にリニューアルオープンしました。ありがたいことに、いずれも患者様各位から好評をいただいております。12 月には心カテーテル治療専用の血管造影装置を更新し、1 月には耳鼻咽喉科外来診察室をリニューアルします。1 月末には、外部から第三者機関評価を受けます。2 台目の高精度 3.0 テスラ MRI 装置の導入（5 月予定）に向けて、しばらく本館 1 階で工事が続き、皆様方にはご迷惑をおかけしますが、よろしくご理解を願います。

3. 大津市民病院 next stage への道

本院では、平成 21 年度から 3 年計画による病院改革プランを着実に遂行してきました。多くの課題に直面しながらも、組織として多くに挑戦してきました。本年度は最終年度で

す。しかしながら、複雑化、不確実化、多様化する医療環境の中で、より一層安心・安全で質の高い医療、安定した経営を目指した病院創りには終わりはありません。創立 75 周年を迎えた今、“次代に引き継ぐ市民とともにある病院”プロジェクトチームの熱い想いを結集して次期中長期病院経営計画（平成 24 年 4 月公表）を策定中です。

医療の原点に戻り、患者様はもとよりご家族の皆様からも信頼され、選ばれる病院であり続けるために『患者とともにある医療』の理念を徹底し、人と人の“絆”を大切にする“結いの医療”に向けて職員一同努力していく所存であります。大津市民病院 next stage への道―『市民とともにある健康・医療拠点』を目指すべき病院の姿として、さらなるバージョンアップ、良質なチーム医療および新たな視点に立った病院イノベーションの遂行に努めてまいります。

4. おわりに

今後も、患者様はじめ市民の皆様にはより安心して最適な治療を受けていただく良質な医療環境の先進的整備に努めてまいります。職員各人がそれぞれの立場でプロ意識のもとに“もう一つできる”ことを合い言葉に、医療の質・安全と学習力の向上を基盤とする組織体として“自己変容のできるエキスパート集団としての強い病院”を目指してまいります。

皆様方のご支援を宜しくお願いいたします。

新しい年が皆様にとって、幸多い年でありますように祈念して、新年のご挨拶と致します。

平成 24 年 新春
院長 片岡慶正